

## 辺野古国会請願署名四万五千筆提出へ、さらに阻止行動を続けよう

木村雅夫

■国会請願署名へのご協力御礼

「7・18沖縄県議会決議を尊重し、辺野古新基地建設の断念を求める請願署名」は、おかげ様で目標（三万筆）をはるかに超えて四四六三八筆（一月二五日現在、団体署名名倉）の署名が集まった。辺野古実では、一〇・一九の反貧困大集会（明治公園）を皮切りに、年末までの大きな集会には担当を決めて集会参加し、こつこつ署名を集めた。私も、イラク・重慶爆撃・派遣法・壊憲反対・アイヌ先住民族・ゲバラ記念・Imagine・泡瀬干潟と高尾・と多岐にわたる集会に一週間ぶつ続けて参加するなど、集会三昧を繰り返しもろもろの運動を知り旧知と再会した。大きな集会では事前に主催者に連絡して会場内での署名集めを了解してもらい、開場前に現場に到着し、意欲的な人には署名用紙を手渡して収集を依頼した。一人で参加して現場でメインスピーカK先生に一言辺野古署名のことを話してもらい、休憩時ロビーで同時に五人が署名してくれた時は感激、ボールペンが一本増え、百筆の署名が集まった。それでも、一二月初旬では全体で四千筆と、なかなか一万の万台に乗らず目標達成を心配したが、さすがに集約予定日を過ぎて個人からも労組関係からもどんどん集まり、新年に入つて方を超え、現在に至った。

二月三日には院内集会を開催して署名を提出し、同日夜に報告集会を開催する運びとなった。衆参両議院に署名用紙を提出するが、衆議院はすぐに解散されるのもつたいないか。沖縄からへり基地反対協議会の安次富浩さんと沖縄県議会議員の渡嘉敷喜代子さん（米軍基地関係特別委員長）が駆けつけてくれる。沢山の人が参加し、沢山のメディアで報道されると良いのだが。

■阻止行動を続けよう

辺野古現地の座り込みは、「8年（命を守る会座り込み）＋1745日目」（二月二七日現在）に達し、環境アセスメント調査の監視行動も続けている。

名護市長は計画の沖合への移動で地元業者の受注をねらい、沖縄県知事も沖合移動を求め、守屋無き防衛省と沖縄防衛局は環境アセスメントとキャンプシュワブ内の造成工事を肅々と進め、普天間協議会のワーキングチームの協議も断続的に続けられている（一月二七日にも東京で開催）。防衛省主導が進められてきた移設工事に対して外務省も乗り出すなど日本政府内部の様相も変わってきている。オバマ米政府の発足に伴つての日本政府のやりとりでも、普天間移設を実現するぞというメッセージ交換が頻繁に見られる。でも、これらの報道は、日本政府をはじめあらゆる関係者が、辺野古への新基地建設がなまやさしくないと感じてきているからだと思われる。

日本政府が言う「抑止力の維持」は破たんしている。米側が横田基地の第五空軍をグアムに移転する計画を考えていたのに、そうすると米国がもはや日本への本格侵攻はないと判断したことになり、「統合任務部隊」の中核となる陸軍司令部を日本に持ち込むのは、「先制攻撃戦略」の先兵とすることを意味している（半田滋、「週刊金曜日」一月二六日号）。また、嘉手納基地へのミサイル配備やF22戦闘機配備や飛行訓練の増加、不発弾処理問題、などなど連日のように沖縄紙に報道される抗議の声で、「沖縄の負担軽減」もまやかしてあることが県民に明らかになってきた。

岡本行夫（元首相補佐官）は米軍普天間飛行場の移設について「橋本政権で地元と合意しているのに、わずかな差異から十数年間、一歩も進まない。合意を守れない日本政府は信頼を失い、日米同盟を損なっている」（「琉球新報」、一月一七日朝刊）とまで、焦りと怒りを露わにしている。あともう少しのがんばりだ。辺野古基地建設を日米政府に断念させ、日米軍事再編に一撃を与え、日米同盟を損なわせるべく、闘い続けよう。辺野古実の辺野古現地派遣も続けている。まだの方は現地座り込みには是非参加してほしい、アセス「準備書」以降の阻止行動に駆けつけられるように。（きむらまさお／反安保実）